

第5回 静岡市清水地区 LRT 導入検討協議会

- 1 日 時 平成 25 年 10 月 16 日（水） 14 時 00 分～16 時 00 分
- 2 場 所 清水庁舎 3 階 第 1 会議室
- 3 出席者 (委 員) 川口会長、小川委員、水島委員、松本委員、笠井委員、
大井委員、齋藤委員、新聞委員（代理：小坂）、仲田委員
(関係者) 松本委員、古屋委員（代理：法月）、
村松委員（代理：望月）、鈴木委員（代理：鷺坂）
(事務局) 松浦都市計画部長、小林交通政策担当部長、大滝参与兼
交通政策課長、吉川統括副主幹、竹下主査、鏡味主任技師
- 欠席者 (委 員) 遠藤委員、花井委員

5 議 題 LRT 導入協議会のまとめ

6 会議内容

- (1) 開会
- (2) 開会あいさつ
- (3) 議題説明
- (4) 意見交換
- (5) 会長とりまとめ
- (6) 閉会

○議題説明

● LRT 導入協議会のまとめ

以下の事項を事務局より説明

第 4 回協議会の指摘事項と対応（案）

清水地区 LRT 導入協議会のまとめ

- ・第 1 回～第 4 回協議会の協議内容と指摘事項
- ・協議会での審議内容の要点
- ・今後の検討の方向性

○意見交換

<LRT の位置づけについて>

- ・LRT ありきではなく、LRT は日の出地区ウォーターフロントへのアクセス手段であるという位置づけである。日の出のウォーターフロントの開発によって、どういう人が来るようになるのかということが決まらないため、誰のための LRT なのかがはっきりとしていない。LRT だけが先行するのではなく、ウォーターフロントの開発のめどがついた頃にもう一度 LRT を検討していくのはどうか。

<需要について>

- ・新清水～日の出の検討を具体化するというのが、観光客や通勤客は JR 清水駅から来るため、本当に活性化につながるのか疑問である。LRT は人気を呼ぶが、それだけで本当に使ってもらえるのか心配である。

<日の出地区の開発について>

- ・ウォーターフロント計画などのまちづくりと一体的となって LRT の検討をさらに深めることが、市民・経済界の理解を深めていくことになる。
- ・日の出地区の賑わいの創出に向け、官民一体となって取り組んでほしい。
- ・静岡都心では、都市の魅力を創出する場が面的に広がっている一方で、清水都心はドリブラなどの施設が点在している。ウォーターフロントのまちづくりという都市の魅力を高める「点」が整備されれば、面的な魅力の向上にもつながる。そのため、静岡都心から清水都心を結ぶことが重要となる。

<観光について>

- ・三保松原から見える富士山などの観光資源が注目されるなかで、市民がその文化や魅力を共有できるようにし、また今後も多くの観光客が訪れる地域にしてほしい。
- ・三保松原が世界文化遺産に登録されたことで、LRT よりも三保松原周辺の開発の方が優先順位は高くなったのではないかと。まず今後 2～3 年は三保松原に集中投資してもらいたい。
- ・観光地へアクセスするルートづくりという観点から LRT の検討を進めなければならない。そのためには JR 清水駅での結節や新清水駅での結節がとても重要である。

○会長とりまとめ

- ・「需要の確保」が主な課題であり、解決のためにはウォーターフロントを中心としたまちづくりと LRT 導入を同時に検討しなければならない。具体的には、日の出地区のまちづくりの方向性を更に明確にし、実現までの道筋を示すことが重要である。
- ・JR 清水駅から新清水駅を結ぶルートは東口・西口ルートについて継続して検討し、新清水駅から日の出地区を結ぶルートはより詳細な検討を行う。その際には、静岡鉄道と連続的・一体的に運行できるシステムとさせる。